Emotional Stroop Task 日本語版の作成と臨床実用性の検討

高田景一郎，　永井　　宏，　田中謙太郎，　西村　良二

福岡大学医学部精神医学教室

要旨：精神科領域では評価が観察によって行われる事が多く，より客観的な評価が切望されている．情動の偏りを数値化する客観的な評価法として Emotional Stroop Task が有る．Emotional Stroop Task とは複数の情報を処理するときに中立刺激に比べ脅威刺激で干渉時間が延長することを利用した神経心理学的検査である．今回，不安障害・気分障害の初診患者を対象とした Emotional Stroop Task と半構造化面接による精神症状評価尺度での評価を行い関連を調査したので報告をする．Emotional Stroop Task の中立語条件では中立語を，脅威語条件では脅威語を刺激として提示した．脅威語条件の反応時間から中立語条件の反応時間を引いたものを情動干渉時間とした．情動干渉時間と HAM-D・HAM-A との間に有意な正の相関が認められた．Emotional Stroop Task により抑うつ・不安の重症度の予測が可能であり，客観的な抑うつ・不安の評価方法として期待できる．

キーワード：**Emotional stroop task**，気分障害，不安障害，神経心理学的検査